

コニカミノルタ株式会社 2024年3月期（2023年度） 第3四半期決算説明会

代表執行役社長 兼 CEO 大幸 利充
2024年2月1日

Giving Shape to Ideas



© KONICA MINOLTA

本日は当社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。
本日15時に開示いたしました、2023年度第3四半期決算及び中期経営計画の進捗について、私、大幸からご説明いたします。

本日のポイント



FY23 3Q実績

- 売上高 : 3Q 減収、累計 増収
- 営業利益 : 3Q 78億円 (減益)、累計 86億円 (増益)
 - 増益 オフィス、機能材料
 - 減益 センシング、メディカルイメージング
 - 映像ソリューション (プラネタリウム) で減損損失計上

中期経営計画の進捗

- 事業の選択と集中
 - 非重点事業 : 中国生産子会社2社の持分80%譲渡契約締結 (光学コンポーネント)
 - 方向転換事業 : 撤退、第三者資本活用を含む戦略的選択肢の実行 (2024年度)
- 財務基盤の強化
 - 運転資本圧縮による営業CFの黒字 (145億円)

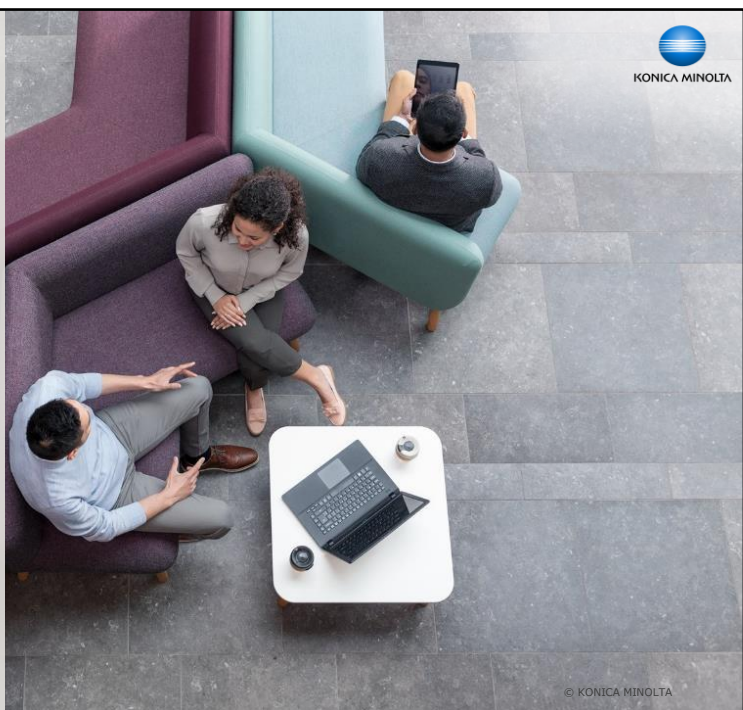
2ページ目では、本日お伝えしたいサマリーをお示ししています。

まず第3四半期10-12月期の実績ですが、売上は前期比で減少、営業利益は78億円、受注残解消効果のあった前期比では減益でしたが、累計期間では86億円と増収増益となりました。事業別の状況は後ほどご説明しますが、ポイントとなるビジネスユニットをまとめております。増益はオフィスと機能材料、減益はセンシングとメディカルイメージングとなっております。また、インダストリーの映像ソリューションユニットのプラネタリウムでは約17億円の減損損失を計上しております。第3四半期の着地は概ね想定通り、累計ではやや上回っており、通期の公表値に向けても順調な進捗となりました。

続きまして、中期経営計画の進捗についてですが、事業の選択と集中に向け、非重点事業の取組みを進めました。前回ご報告した様に光学コンポーネントユニットにおいては、産業用途での高付加価値領域へのシフトを目的とし、中国生産子会社2社を80%持分譲渡する契約を締結しました。

方向転換事業につきましては、事業内の製品サービスや地域等を選別し、24年度に撤退、第三者資本活用を含む戦略的選択肢を実行する計画を進めております。財務基盤の強化に向けては、運転資本圧縮によって営業キャッシュフローの拡大、145億円の黒字となりました。

2023年度 3Q業績



2023年度 3Q業績 | 全社サマリー



FY23 3Q累計実績

- 売上高 : 増収
- 事業貢献利益* : 生産コストダウン、物流費の削減等により改善
- 当期利益 : 金融収支の悪化、為替差損計上
- FCF : 棚卸資産の削減により大幅増加

【億円】

	2023年度 3Q累計	対前年		2023年度 3Q	対前年		為替影響を除く 前期比
		2022年度 3Q累計	前期比		2022年度 3Q	前期比	
売上高	8,420	8,210	+3%	2,892	2,903	△ 0%	△ 5%
売上総利益	3,681	3,516	+5%	1,309	1,256	+4%	△ 2%
(売上総利益率)	43.7%	42.8%	+0.9pt	45.3%	43.3%	+2.0pt	
販売管理費	3,559	3,406	+4%	1,209	1,153	+5%	+1%
事業貢献利益	122	110	+11%	99	102	△ 3%	△ 36%
営業利益	86	34	+153%	78	85	△ 9%	△ 48%
親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 41	△ 33	-	3	35	△ 90%	
FCF	133	△ 428	-	39	△ 174	-	
為替レート (円)							
USドル	143.29	136.51	+6.78	147.89	141.59	+6.30	
ユーロ	155.29	140.59	+14.70	159.11	144.30	+14.81	

* 事業貢献利益：売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出した利益指標

© KONICA MINOLTA 4

4ページ目に、全社業績について10-12月期と9カ月間累計の実績を記載しております。9カ月間累計の連結売上高は、8,420億円と増収となりました。為替影響を除きますと、減収ではありますが、前年同期にはオフィス事業で受注残の解消による売上の押上げ効果があったため、その反動は想定内でした。売上総利益率は昨年から約1ポイント改善しました。昨年は受注残の解消に向けて供給を優先したことにより物流コストが増加しましたが、正常化しております。また製造コストダウンも売上総利益率の改善に寄与しました。

一方、販売管理費は世界的な物価高騰に対応した定期昇給の見直しなどで人件費は増えましたが、構造改革の効果やその他の経費を抑制し、為替影響を除きますとほぼ前年並みにコントロールしました。但し、今後も、もう一段の抑制が必要という認識です。

その結果、9カ月間の累計の営業利益は86億円と上期末から利益が増加しております。今期、注力しております、キャッシュ創出力の強化におきましても、営業キャッシュフローの改善により、フリーキャッシュフローは9ヶ月間累計で133億円の黒字となっています。

2023年度 3Q業績 | 事業セグメント別売上高、事業貢献利益、営業利益



**FY23
3Q累計実績**

売上高	FY23 3Q累計	対前年		
		FY22 3Q累計	前年比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	4,506	4,371	+ 3%	△ 3%
プロフェッショナルプリント事業	1,897	1,849	+ 3%	△ 1%
ヘルスケア事業	985	969	+ 2%	△ 1%
インダストリー事業 *1	1,016	1,004	+ 1%	△ 2%
コーポレート他 *1	15	16	△ 6%	△ 6%
全社合計	8,420	8,210	+ 3%	△ 2%

【億円】

事業貢献利益	FY23 3Q累計	率	対前年（本社費等配賦調整後）*2		
			FY22 3Q累計	前年比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	205	5%	167	+ 23%	+ 5%
プロフェッショナルプリント事業	88	5%	93	△ 6%	△ 21%
ヘルスケア事業	△ 54	-	△ 81	-	-
インダストリー事業 *1	91	9%	163	△ 44%	△ 48%
コーポレート他 *1	△ 207	-	△ 232	-	-
全社合計	122	1%	110	+ 11%	△ 55%

営業利益	FY23 3Q累計	率	対前年（本社費等配賦調整後）*2		
			FY22 3Q累計	前年比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	197	4%	107	+ 83%	+ 56%
プロフェッショナルプリント事業	88	5%	89	△ 1%	△ 17%
ヘルスケア事業	△ 58	-	△ 90	-	-
インダストリー事業 *1 *3	69	7%	161	△ 57%	△ 61%
コーポレート他 *1	△ 210	-	△ 233	-	-
全社合計	86	1%	34	+ 153%	△ 59%

*1 FORXAIの売上高・事業貢献利益・営業利益は、FY22はインダストリー事業、FY23はコーポレート他を含む。本資料ではFY22もコーポレート他に組み替えて表記。

*2 本社費等配賦調整：全社に関わる一部費用を、2022年度まで事業セグメントに配賦をしていたが、2023年度から見直しを実施。
表中の値は、参考として2022年度実績の費用配賦を2023年度の基準に調整した後の値。
デジタルワークプレイス事業とプロフェッショナルプリント事業の共通費配賦調整を含む。

*3 映像ソリューション（プラネタリウム）の減損損失含む

© KONICA MINOLTA 5

5ページと6ページに、事業別の増減をお示ししています。後ほど事業別の状況について詳しくご説明します。

2023年度 3Q業績 | 事業セグメント別売上高、事業貢献利益、営業利益



**FY23
3Q実績**

【億円】

売上高	FY23 3Q	対前年		
		FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	1,561	1,587	△ 2%	△ 7%
プロフェッショナルプリント事業	657	651	+ 1%	△ 4%
ヘルスケア事業	347	329	+ 5%	+ 2%
インダストリー事業 *1	322	331	△ 3%	△ 6%
コーポレート他 *1	5	5	△ 2%	△ 2%
全社合計	2,892	2,903	△ 0%	△ 5%

事業貢献利益	FY23 3Q	率	対前年（本社費等配賦調整後）*2		
			FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	97	6%	94	+ 3%	△ 23%
プロフェッショナルプリント事業	52	8%	55	△ 6%	△ 22%
ヘルスケア事業	△ 15	-	△ 4	-	-
インダストリー事業 *1	31	10%	41	△ 24%	△ 26%
コーポレート他 *1	△ 66	-	△ 84	-	-
全社合計	99	3%	102	△ 3%	△ 36%

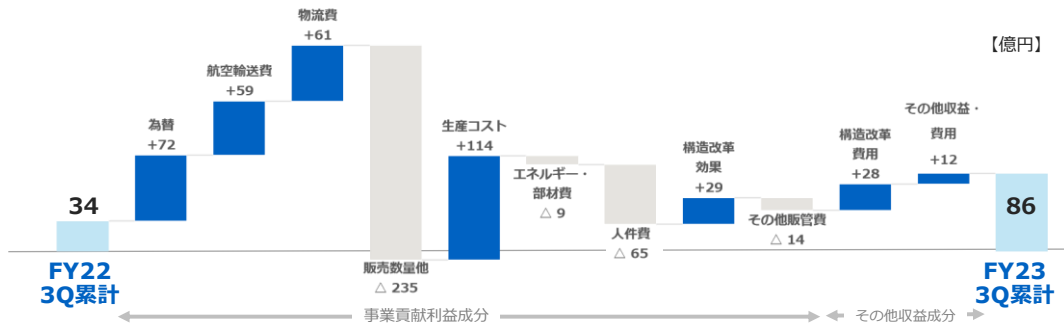
営業利益	FY23 3Q	率	対前年（本社費等配賦調整後）*2		
			FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	96	6%	80	+ 20%	△ 11%
プロフェッショナルプリント事業	51	8%	54	△ 5%	△ 22%
ヘルスケア事業	△ 16	-	△ 4	-	-
インダストリー事業 *1 *3	14	4%	40	△ 65%	△ 67%
コーポレート他 *1	△ 68	-	△ 84	-	-
全社合計	78	3%	85	△ 9%	△ 48%

*1 FORXAIの売上高・事業貢献利益・営業利益は、FY22はインダストリー事業、FY23はコーポレート他を含む。本資料ではFY22もコーポレート他に組み替えて表記。

*2 本社費等配賦調整：全社に関わる一部費用を、2022年度まで事業セグメントに配賦をしていたが、2023年度から見直しを実施。
表中の値は、参考として2022年度実績の費用配賦を2023年度の基準に調整した後の値。
デジタルワークプレイス事業とプロフェッショナルプリント事業の共通費配賦調整を含む。

*3 映像ソリューション（プラネタリウム）の減損損失含む

2023年度 3Q業績 | 営業利益の増減要因 (3Q累計)



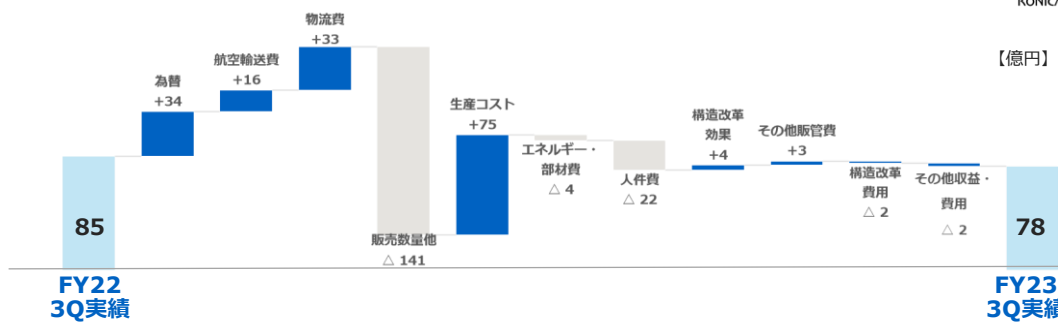
	FY22 3Q累計 実績	為替	航空輸送費	物流費	販売数量他	生産コスト	エネルギー・ 部材費	人件費	構造改革効果	その他販管費	構造改革費用	その他 収益・費用	FY23 3Q累計 実績
デジタルワーク プレイス事業	107	+47	+42	+58	△161	+77	+6	△35	+23	△20	+28	+23	197
プロフェッショナル プリント事業	89	+24	+17	+3	△38	+3	+3	△12	-	△4	-	+5	88
ヘルスケア事業	△90	△3	-	-	+28	+16	△9	△14	+4	+5	+0	+5	△58
インダストリー事業	161	+6	-	-	△62	+18	△9	△7	+2	△20	△1	△20	69
コーポレート他	△233	△2	-	-	△1	-	-	+2	-	+25	-	△1	△210
合計	34	+72	+59	+61	△235	+114	△9	△65	+29	△14	+28	+12	86

7ページと8ページには、営業利益の増減要因を示しております。傾向としましては、第2四半期と類似しております。昨年度からはデジタルワークプレイス、プロフェッショナルプリントは受注残の剥落から数量減が大きく、世界的な人件費高騰なども影響していますが、為替の追風や物流の正常化、航空輸送の減と生産コストダウンによりカバーしています。

2023年度 3Q業績 | 営業利益の増減要因 (3Q)



【億円】

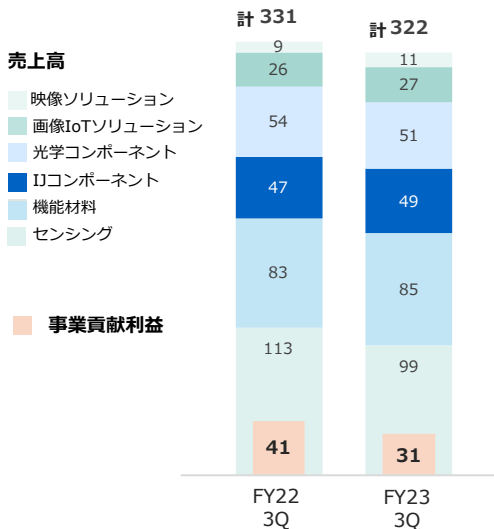


	事業貢献利益成分												その他収益成分	
	FY22 3Q 実績	為替	航空輸送費	物流費	販売数量他	生産コスト	エネルギー・ 部材費	人件費	構造改革効果	その他販管費	構造改革費用	その他 収益・費用	FY23 3Q 実績	
デジタルワーク プレイス事業	80	+25	+9	+30	△106	+50	+1	△5	+2	△2	△1	+14	96	
プロフェッショナル プリント事業	54	+9	+7	+3	△14	+1	+1	△4	-	△5	-	+1	51	
ヘルスケア事業	△4	△0	-	-	+2	+8	△6	△12	-	△2	△0	△0	△16	
インダストリー事業	40	+1	-	-	△23	+17	-	△3	+2	△3	△1	△15	14	
コーポレート他	△84	△0	-	-	△0	-	-	+2	-	+16	-	△1	△68	
合計	85	+34	+16	+33	△141	+75	△4	△22	+4	+3	△2	△2	78	

2023年度 3Q業績 | 事業動向 インダストリー



【億円】



【売上高】

(対前年同期)

センシング	<ul style="list-style-type: none"> 光源色：大口顧客の設備投資抑制の影響で減少 物体色：好調 自動車外観：堅調
機能材料	<ul style="list-style-type: none"> TV：サプライチェーン上の生産調整により需要減。大型TV向けSANUQIフィルムは伸長 スマホ：需要の回復で増加傾向
IJコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> 中国/欧州でサイングラフィックス向けヘッド好調
画像IoTソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 監視カメラソリューション：欧米堅調 Force Security社*：好調
映像ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> プラネタリウム：減損損失17億円を計上

【事業貢献利益】

インダストリー事業	<ul style="list-style-type: none"> 機能材料：増益 センシング、画像IoTソリューション、映像ソリューション：減益
-----------	--

* Force Security社：2023年度に買収した米国のシステムインテグレーター

© KONICA MINOLTA 9

9ページから、事業セグメント別の10-12月期の実績をビジネスユニット毎にご説明します。

まずセンシングですが、光源色は顧客のディスプレイ設備投資抑制の影響を受け、大手顧客を中心にした売上の減少傾向が第3四半期も継続しました。ただ本年度末に向けたフォーキャストには少し明るさは見えてきております。物体色、自動車の外観検査は対前年同期比で堅調です。

機能材料では、需要はサプライチェーンにおける生産調整の影響を受け減少していますが、強化している大型TV向けの位相差フィルムで新樹脂SANUQIの販売が伸びました。中小型向けはセット向け、すなわち完成品メーカー向けの需要が対前年同期比で回復傾向にあり、売上も増加しました。

インクジェットコンポーネント事業は、屋外広告の印刷に使われるサイングラフィックス向けヘッドが好調を持続しています。

画像IoTソリューションでは、監視カメラソリューションが欧米販売会社での展開が進み、売上も増加しています。米国で買収したシステムインテグレーターForce Security社は堅調に推移しています。

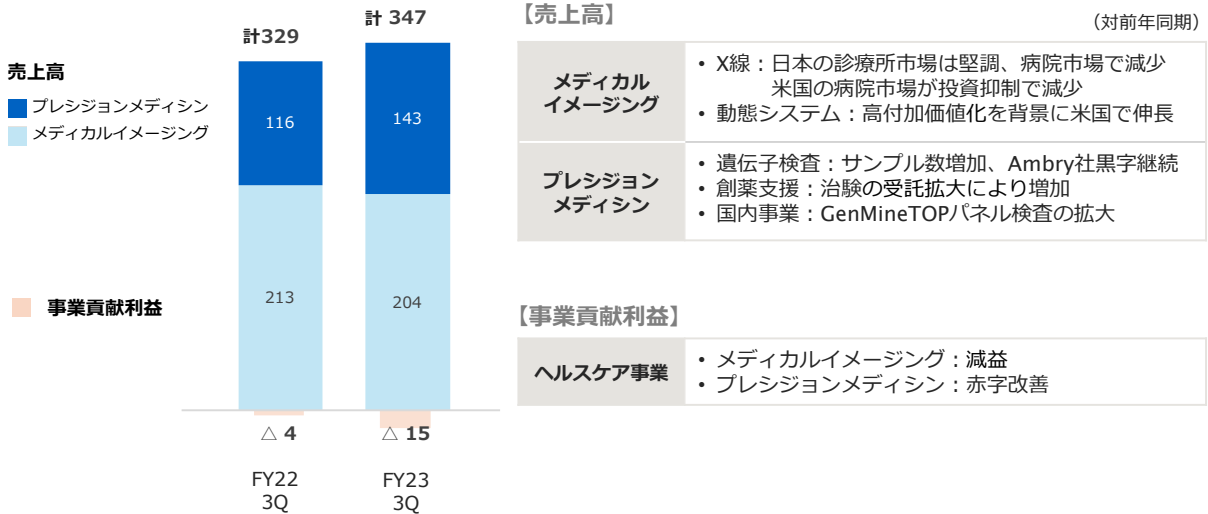
映像ソリューションでは、主にプラネタリウム直営館の集客がコロナ前水準に戻らず、売上高が伸び悩んだ影響で収益の確保が厳しい状況が続いたため、第3四半期末に減損損失17億円を計上しました。

インダストリー事業全体の事業貢献利益は昨年好調だったセンシングの減収が響き、減益となりました。

2023年度 3Q業績 | 事業動向 ヘルスケア



【億円】



© KONICA MINOLTA 10

10ページでヘルスケアの実績をご説明します。

X線画像診断に用いられるDRの販売台数は、日本の診療所向けは好調を維持した一方、病院市場向けは日本や、米国でのX線システム販売が投資抑制の影響で減速しています。当社が世界で唯一提供できるX線の動態解析システムは、高付加価値であることを背景に米国の病院市場を中心に順調に伸長しました。

メディカルイメージング全体の売上高は、主に国内販社が他社から仕入れて販売する医療機器等の売上が減少した影響も受け、減収となりました。

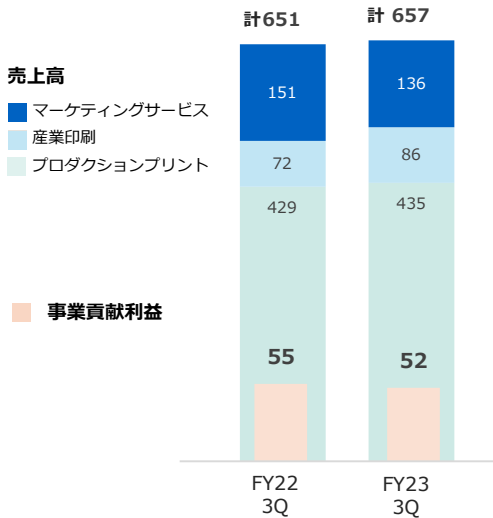
プレジジョンメディシンでは、遺伝子診断の受注サンプル数が拡大し、Ambry社単体では黒字が継続しました。創薬支援でも製薬企業の治験関連の売上が増えました。国内事業では、8月からサービスを開始したGenMineTOPパネル検査が順調に受注を増やしています。

プレジジョンメディシンが赤字幅を縮めました。しかし、メディカルイメージングの減収が響き、10-12月期のヘルスケア全体の事業貢献利益は減益となりました。メディカルイメージングは、シーズナリティも含めて第4四半期の売上、利益の回復を見込んでいます。

2023年度 3Q業績 | 事業動向 プロフェッショナルプリント



【億円】



【売上高】

(対前年同期、ハード/ノンハードは為替影響除く)

プロダクションプリント	<ul style="list-style-type: none"> ハード：96% (前年の受注残解除除く 98%) カラー機台数 97% (HPP124%) モノクロ機台数 88% ノンハード：96% (前年の受注残解除除く 99%) 日欧米減少、印好調
産業印刷	<ul style="list-style-type: none"> ハード：ラベル印刷、テキスタイル印刷で台数増加。大型印刷機の設置一部遅れ ノンハード：QoQで売上増加を継続

【事業貢献利益】

プロフェッショナルプリント事業	<ul style="list-style-type: none"> プロダクションプリント：増益 産業印刷：減益 マーケティングサービス：減益
-----------------	---

© KONICA MINOLTA 11

P11は、プロフェッショナルプリントです。

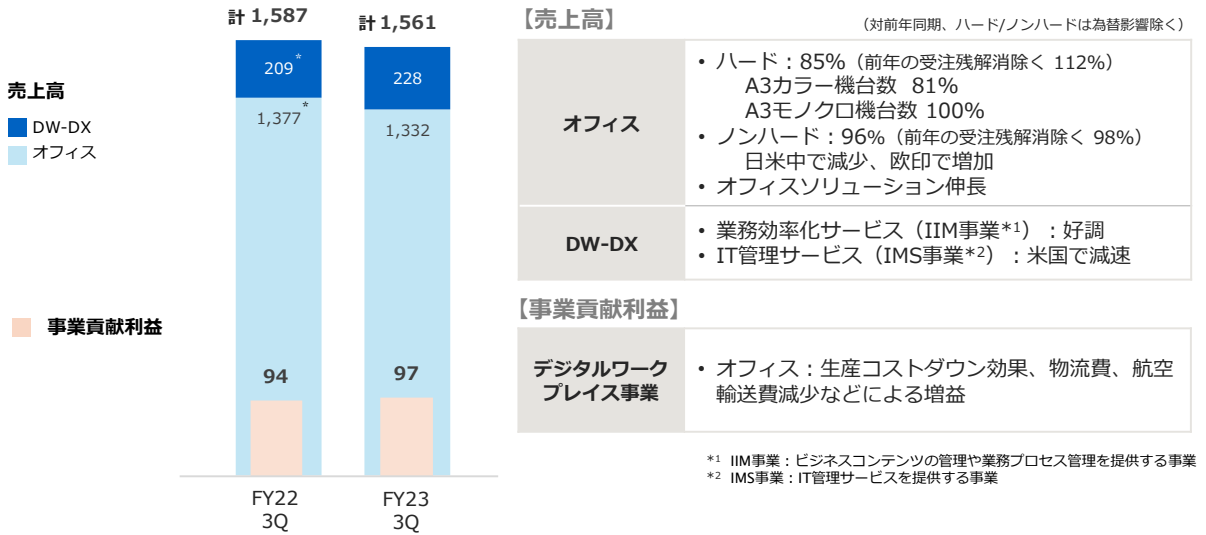
プロダクションプリントのハード売上高は、前年比96%でした。欧州・中国の景気影響によりお客様企業の設備投資意欲の低下の影響を受けましたが、昨年度の受注残影響を除けば前年比98%となっております。カラー機の販売台数は97%でしたが、中規模以上の印刷企業の顧客開拓を狙って注力しているHPP（ヘビープロダクションプリント）の台数は24%伸びており、今後のノンハードの拡大につなげていきます。産業印刷はインクジェット印刷機KM-1の設置に遅れがありましたが、ラベル印刷、テキスタイルプリンターはデジタル化の波に乗り販売台数は増加しました。ノンハードはQoQでも増加しています。

プロフェッショナルプリント事業の事業貢献利益は減益ですが、前年には受注残解消効果があったことを考慮しますと、ほぼ前年並みの水準です。

2023年度 3Q業績 | 事業動向 デジタルワークプレイス



【億円】



© KONICA MINOLTA 12

12ページはデジタルワークプレイスです。

オフィスのハード売上高は前年比85%でしたが、前年度の受注残影響を除けば112%と堅調でした。ノンハードの売上高も受注残影響を除外すると98%と概ね前年並み、欧州、インドでは増加しました。また、One rate (定額課金) をソリューション商材の重ね売りをしながらMid-large顧客層にも拡大していること、および直販チャネルでセキュリティ、プリントマネジメントといった商材の販売を強化していることからオフィスソリューションも伸張しております。

DW-DXではお客様企業の業務プロセスの改善を支援するサービスが好調でした。

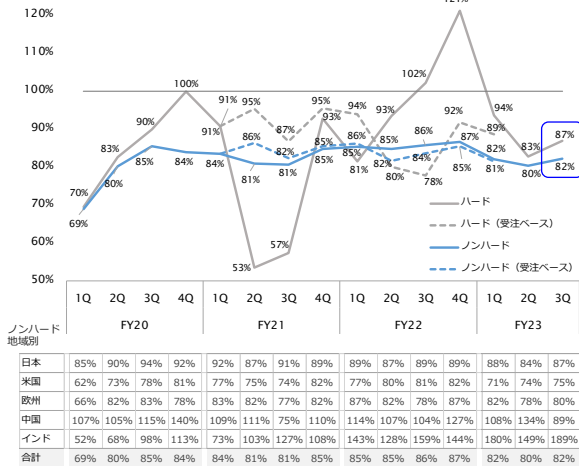
利益面では、オフィスの人員・経費の最適化による固定費削減および部材原価低減、物流費や航空輸送の減少などによるコストダウンが要因となり、受注残解消効果のあった前年並みの利益をフォローできています。

2023年度 業績 | ハード・ノンハード売上 対FY19

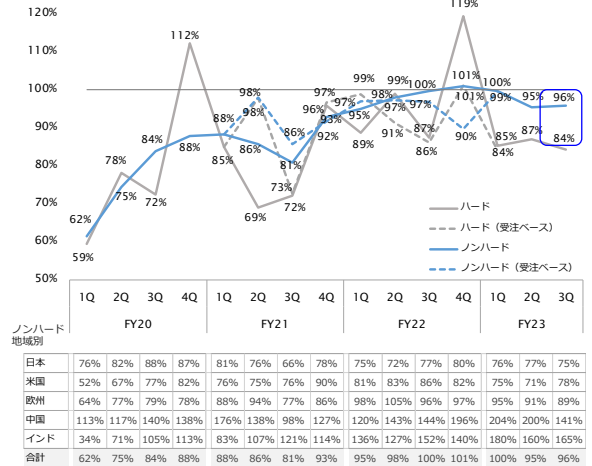


(2019年度を100%とした場合)

オフィス



プロダクションプリント



13ページでは、オフィス事業とプロダクションプリント事業のハード、ノンハードの売上高をコロナ前の19年度と対比した指数でお示ししています。オフィスのノンハードは82%となり、23年度は、ほぼ横這いで推移しております。

2023年度 業績見通し | サマリー



- 業績見通しは売上高、利益は前回公表を据え置き（一部にリスク要因を織り込む）
- 為替はドル140円、ユーロ140円で据え置き
- 配当は年間5円（中間無配、期末5円）で据え置き

【億円】

	2023年度 見通し	対前回			対前年				
		前回見通し	差異	増減率	2022年度実績	差異	増減率	売上高	営業利益
売上高	11,500	11,500	-	-	11,304	+196	+2%		
事業貢献利益	240	240	-	-	297	△57	△19%		
営業利益	180	180	-	-	△951	+1,131	-		
親会社の所有者に帰属する 当期利益	40	40	-	-	△1,032	+1,072	-		
FCF	240	240	-	-	△242	+482			
								為替感応度 *1	
								売上高	営業利益
為替レート [円]									
USD	140.0	140.0	-	-	135.5	+4.5		+32	△3
EUR	140.0	140.0	-	-	141.0	△1.0		+18	+6
RMB	19.0	19.0	-	-	19.7	△0.7		+34	+10

*1 為替感応度：1円変動時の影響額（年間）

© KONICA MINOLTA 14

14ページで23年度の通期業績見通しをご説明します。売上及び利益、為替の前提は前回予想を据え置きます。利益は通期予想に対して順調に進捗しており、特に稼ぐ力の指標である事業貢献利益は会社想定以上の水準で推移しておりますが、期初に掲げた数字を確実に達成することが資本市場をはじめとするステークホルダーの信頼を取り戻すことにつながるという考えに立ち、リスク対応費用などを保守的に織り込み据え置くことにいたしました。配当につきましても、期末5円の予想で据置きとさせていただきます。

2023年度 業績見通し | セグメント別



【億円】

売上高	FY23 見通し	対前回見通し			対前年		
		前回見通し	差異	増減率	FY22 実績 *	差異	増減率
デジタルワークプレイス事業	6,100	6,030	+70	+1%	6,003	+97	+2%
プロフェッショナルプリント事業	2,600	2,600	-	-	2,526	+74	+3%
ヘルスケア事業	1,410	1,410	-	-	1,378	+32	+2%
インダストリー事業	1,380	1,450	△70	△5%	1,371	+9	+1%
コーポレート他	10	10	-	-	26	△16	△62%
全社合計	11,500	11,500	-	-	11,304	+196	+2%

事業貢献利益	FY23 見通し	率	対前回見通し			対前年				
			前回見通し	差異	増減率	FY22 実績 *	差異	増減率		
デジタルワークプレイス事業	290	5%	240	4%	+50	+21%	307	5%	△17	△6%
プロフェッショナルプリント事業	125	5%	120	5%	+5	+4%	151	6%	△26	△17%
ヘルスケア事業	△35	-	△35	-	-	-	△70	-	+35	-
インダストリー事業	130	9%	185	13%	△55	△30%	217	16%	△87	△40%
コーポレート他	△270	-	△270	-	-	-	△307	-	+37	-
全社合計	240	2%	240	2%	-	-	297	3%	△57	△19%

営業利益	FY23 見通し	率	対前回見通し			対前年				
			前回見通し	差異	増減率	FY22 実績 (減損除く) *	差異	増減率		
デジタルワークプレイス事業	290	5%	210	3%	+80	+38%	244	4%	+46	+19%
プロフェッショナルプリント事業	125	5%	115	4%	+10	+9%	144	6%	△19	△13%
ヘルスケア事業	△45	-	△40	-	△5	-	△80	-	+35	-
インダストリー事業	135	10%	185	13%	△50	△27%	216	16%	△81	△37%
コーポレート他	△325	-	△290	-	△35	-	△309	-	△16	-
全社合計	180	2%	180	2%	-	-	215	2%	△35	△16%

* FY22 実績：FORXAIの組替、本社費等配賦調整後の値

© KONICA MINOLTA 15

15ページに、事業セグメント別の業績見通しをお示ししております。9カ月間の実績と第4四半期の事業環境の見通しを考慮して、セグメント別に強弱を反映して、セグメント間は調整しております。具体的にはデジタルワークプレイスとプロフェッショナルプリントは増額し、インダストリーは主にセンシングや画像IoTソリューション、映像ソリューションの状況を反映させ減額しております。

中期経営計画の進捗



© KONICA MINOLTA

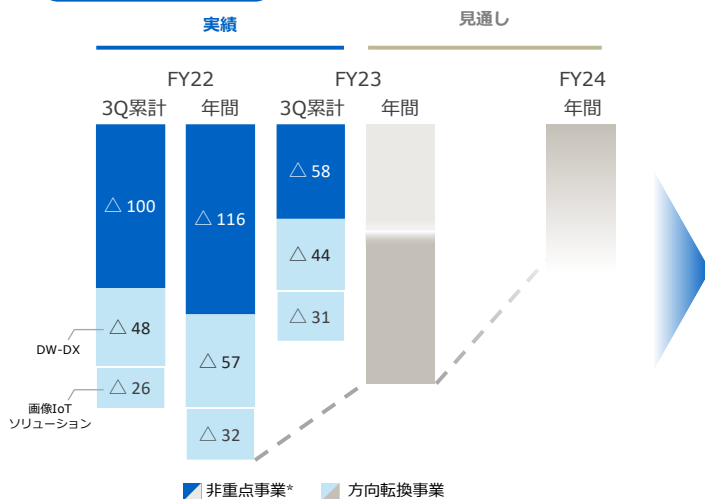
中期経営計画の進捗 | 非重点事業・方向転換事業



事業貢献利益 推移

【億円】

中期経営計画の確実な実行



* 非重点事業：プレジジョンメディシンとマーケティングサービスの合算値

© KONICA MINOLTA 17

非重点事業

光学コンポーネント（強化領域以外）
ラックスビジョンとの戦略的業務提携締結

方向転換事業

撤退、第三者資本活用を含む戦略的選択肢
の実行（2024年度）

17ページから中期経営計画の進捗についてご説明します。

まず事業の選択と集中です。左のグラフにお示ししていますが、非重点事業と方向転換事業の赤字幅は縮小しております。前回ご説明させていただいた光学コンポーネント事業の非産業用途については、10月26日にラックスビジョン社と戦略的業務提携に合意し中国生産子会社2社の持分80%を譲渡する契約を締結し、第4四半期のクロージングを予定しています。

方向転換事業につきましては、冒頭にも触れましたが、従来の、方向性を定めるという所から一歩踏み込んで、事業のサービスや地域毎に精査し、撤退、第三者資本活用を含む戦略的選択肢を24年度に実行する計画を進めており、改めて実行結果をもってご報告させていただきます。

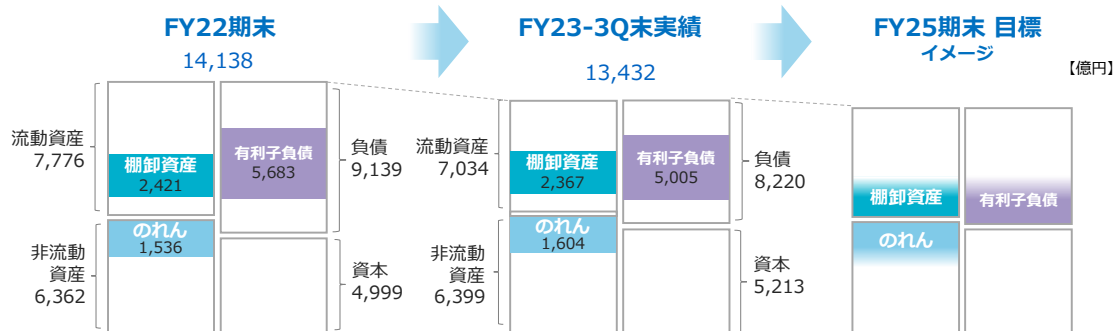
コスト構造改革 | B/S改善の進捗



円安下で順調に資産圧縮が進む（対FY22期末比、総資産△705億円、為替除く実質△1,255億円）

FY23 3Q実績
(FY22期末比)

- 運転資本：△85億円
- 棚卸資産：△55億円
- 営業債権：△143億円



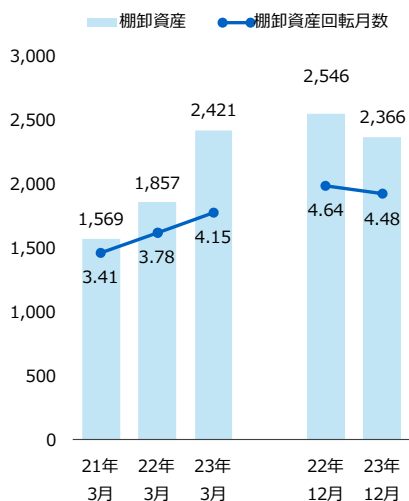
© KONICA MINOLTA 18

18ページでは財務基盤の強化を目指すコスト構造改革の進捗をご説明します。総資産は、借入金の返済や運転資本等の圧縮により前年同期から705億円削減しています。為替の影響を除くと1,255億円を圧縮しました。円安の環境の中、資産圧縮は順調に進んでいると認識しております。

財務基盤の強化 | 棚卸資産、営業キャッシュ・フロー

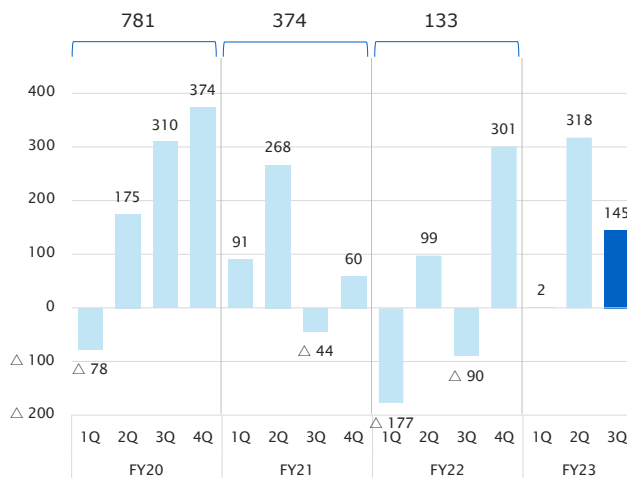


棚卸資産



営業キャッシュ・フロー

【億円】



© KONICA MINOLTA 19

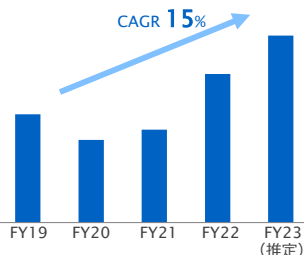
19ページは棚卸資産の推移、営業キャッシュフローの推移をグラフでお示ししています。営業キャッシュフローは、黒字化と、棚卸資産の圧縮により累計で465億円の黒字となりました。

成長をけん引するインド事業



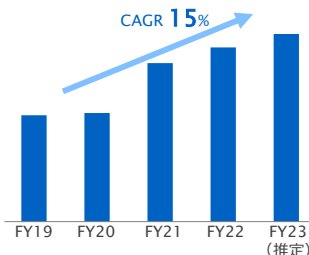
プロダクションプリント

インド販売台数*
*プロダクションプリント全機種種の合計



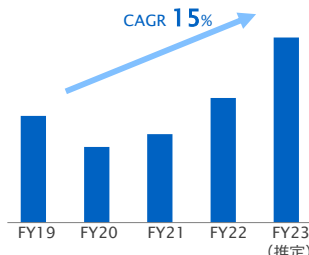
メディカルイメージング

インド売上高*
*現地通貨ベース



オフィス

インド販売台数*
*カラー複合機全機種種の合計



市場機会	人口増/小ロット印刷需要増に伴うデジタル印刷市場拡大	人口増/健康寿命延伸に向けた医療高度化・効率化ニーズ増	人口増/カラー急拡大
強み	高精細デジタル印刷技術/インド全土をカバーする強固な販売・サポート体制	現地販売サービス体制/アナログからの顧客基盤	強固な販売体制/カラー特化戦略
シェア	カラー機で約 60%	DR*で約 20%	A3カラー機で約 20%

* DR: X線診断に用いられるデジタルラジオグラフィの略称

© KONICA MINOLTA 20

ここからは、中長期で強化していく地域や事業における進捗についてお話しします。

まず20ページは、地域戦略の進捗をご紹介します。ご承知のように、インドは人口増を背景に、高い経済成長率を持続しています。当社情報機器事業のインド市場参入は、競合に比べ後発でしたが、商業印刷・カラー分野に特化して、デジタル印刷のカラー機で圧倒的なトップシェアを確立し、その後はオフィス領域でもカラー機を中心に事業の拡大に努めています。またメディカルイメージングにおいても、人口増加の中で健康寿命延伸に向けた医療高度化、診断効率の向上へのニーズが高まっており、X線アナログフィルム事業で培った顧客基盤を活かして、20%のシェアを獲得しています。

オフィス用カラー複合機でも、先ほどご説明した様にカラーに特化したジャンルトップ戦略を展開し、A3カラー機ではトップクラスのシェアを維持しております。中期経営計画の達成に向け、インドをはじめとする成長市場での事業機会を捉えて、強化事業の拡大、ジャンルトップの確立を進めていきます。

インダストリー事業の成長実現にむけた取り組み

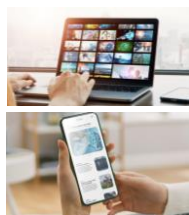


強化領域と位置付けたディスプレイとモビリティ分野において重要案件獲得が進む

ディスプレイ

インダストリー横断の事業開発に進展

- ICTブランドオーナーへ事業横断のアプローチ
- 非偏光板用機能性フィルムで、次世代中小型ディスプレイ向け案件を受注し、生産開始



モビリティ

外観検査装置 グローバルで導入進展

- さらなる拡大に向けパイプライン積み上げ進む
- Einesとコニカミノルタの技術で世界最高水準の検出性能を実現



© KONICA MINOLTA 21

21ページでは、インダストリー事業の成長に向けた取り組みの進捗について示しています。

昨年10月のインダストリー事業説明会でもご紹介した、中長期の成長に欠かせない重要な案件について、ディスプレイとモビリティの領域に進展が見られましたのでご紹介します。

まず左側のディスプレイ領域では、従来の液晶ディスプレイから中小型で次世代ディスプレイに置き換わる中で、非偏光板向けの機能性フィルムを受注し生産を開始しました。このフィルムを利用した製品は従来品にくらべて画質が向上し、最終製品の商品力向上に大きく貢献します。市場の変化を捉え、顧客課題に対して顧客に寄り添い、開発を加速する、という当社ならではの強みを活かした成果と考えています。

次にモビリティ領域での進捗ですが、買収したEines社を中心に展開する自動車外観検査システムにおいて、グローバルで導入が進んでいます。Eines社とコニカミノルタの技術を組み合わせる事でより高い検出性能を実現しており、世界最高水準の外観検査水準となっています。更なる拡大に向けたパイプラインの積み上げも進んでおり、今後も導入工場を欧州からアジア・米州にも拡大していきたいと考えています。

実績

- インダストリー事業説明会 開催（2023年10月10日）（[リンク](#)）
- 知的財産報告書 発行（[リンク](#)）
- Konica Minolta Day ～サステナビリティ説明会～ 開催（2023年12月12日）（[リンク](#)）

今後の予定

- 経営方針説明会
 - 日程：2024年3月中旬～4月（予定）
 - アジェンダ：中期経営計画の進捗報告、さらなる施策
- 2023年度 決算説明会
 - 日程：2024年5月14日（予定）

最後にIR関連の取組みと今後の予定をご説明させていただきます。

昨年10月にはインダストリー事業説明会、12月にはKonica Minolta Dayとしてサステナビリティ説明会を開催し、当社の成長事業や、環境対応、知財・技術・人財などの無形資産、ガバナンスに関して説明をさせていただきました。

今後、5月に予定しております23年度決算説明会の前に、中期経営計画1年目の進捗および計画で掲げた目標に向けて、更にギアアップさせるための施策について、ご説明をさせていただきたいと考えております。



KONICA MINOLTA

以上で、第3四半期の決算の概要、中期経営計画の進捗についてのご説明を終えます。
本日はご清聴どうも有難うございました。

APPENDIX

開示しておりました一部資料はウェブ上の開示に変更しました。
以下よりダウンロードしてご確認頂けます。

https://www.konicaminolta.com/jp-ja/investors/ir_library/fr/pdf/2024/2024_3q_presentation_supplementary.xlsx

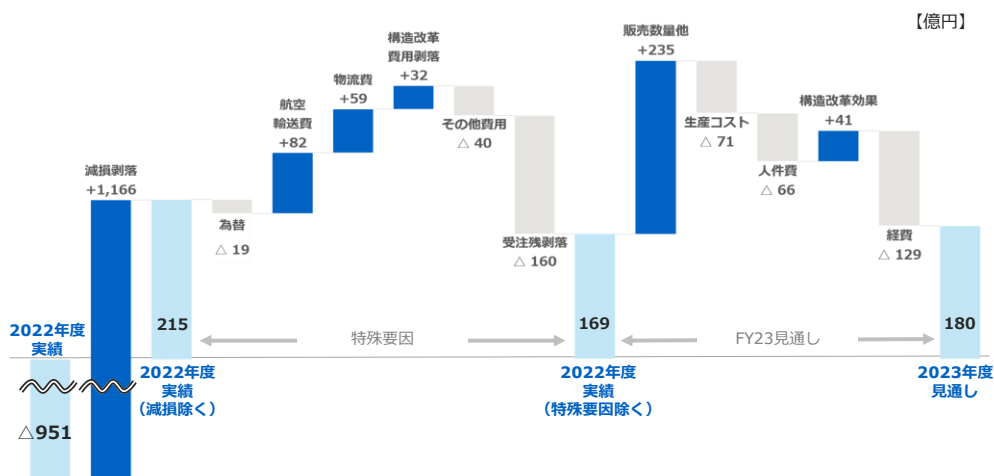


2023年度 業績見通し | 営業利益の増減要因（再掲）



【ポイント】

- FY22特殊要因：航空輸送費、物流費、構造改革費剥落、生産影響含む受注残剥落
- FY23見通し：数量増、価格対応、コスト増



全社業績



【億円】

	FY23 3Q累計	対前年		FY23 3Q	対前年	
		FY22 3Q累計	前期比		FY22 3Q	前期比
売上高	8,420	8,210	+3%	2,892	2,903	△0.0%
売上総利益 (売上総利益率)	3,681 43.7%	3,516 42.8%	+5% +0.9pt	1,309 45.3%	1,256 43.3%	+4% +2.0pt
販売管理費	3,559	3,406	+4%	1,209	1,153	+5%
事業貢献利益 (事業貢献利益率)	122 1.5%	110 1.3%	+11% +0.1pt	99 3.4%	102 3.5%	△3% △0.1pt
その他収益・費用	△37	△76	-	△22	△17	-
営業利益 (営業利益率)	86 1.0%	34 0.4%	+153% +0.6pt	78 2.7%	85 2.9%	△9% △0.2pt
金融収支	△100	△41	-	△56	△62	-
税引前利益 (税引前利益率)	△16 -	△8 -	-	21 0.7%	23 0.8%	△7% △0.1pt
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	△41 -	△33 -	-	3 0.1%	35 1.2%	△90% △1.1pt
EPS (円)	△8.39	△6.60		0.70	7.06	
設備投資額	305	269		116	91	
減価償却費及び償却費 *	408	416		137	137	
研究開発費	488	475		162	163	
FCF	133	△428		39	△174	
投融资	6	16		△1	0	
為替レート [円] USD	143.29	136.51	+6.78	147.89	141.59	+6.30
EUR	155.29	140.59	+14.70	159.11	144.30	+14.81

*IFRS16による使用権資産償却費は含まない

© KONICA MINOLTA 26

営業利益増減分析



【億円】

前年同期比 (FY23 3Q累計 vs FY22 3Q累計)	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【営業利益】						
為替	+47	+24	△ 3	+6	△ 2	+72
販売数量他	△ 31	△ 18	+34	△ 55	△ 1	△ 70
値上げ	+25	+4	+1	+2	-	+31
その他販管費	△ 3	△ 16	△ 5	△ 24	+27	△ 21
その他収益費用	+52	+5	+5	△ 20	△ 1	+40
合計	+89	△ 1	+32	△ 92	+24	+52

前年同期比 (FY23/3Q vs FY22/3Q)	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【営業利益】						
為替	+25	+9	△ 0	+1	△ 0	+34
販売数量他	△ 34	△ 5	+3	△ 6	△ 0	△ 41
値上げ	+12	-	+0	△ 0	-	+12
その他販管費	△ 0	△ 7	△ 14	△ 4	+18	△ 8
その他収益費用	+13	+1	△ 1	△ 16	△ 1	△ 4
合計	+16	△ 3	△ 11	△ 26	+16	△ 7

販売管理費・その他の収益・費用及び金融収支明細



【億円】

	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比	2023年度 3Q	2022年度 3Q	前期比
販売管理費						
販売変動費	338	372	△34	115	120	△5
研究開発費	488	475	+13	162	163	△1
人件費	1,757	1,625	+132	603	554	+49
その他	977	935	+42	330	316	+14
販売管理費 計	3,559	3,406	+153	1,209	1,153	+56
*為替影響額:	+146億円 (除く為替 +7億円)			+50億円 (除く為替 +6億円)		
その他の収益						
保険金収入	11	13	△2	7	1	+6
その他	35	29	+6	11	12	△1
その他の収益 計	46	42	+4	18	13	+5
その他の費用						
減損損失	18	-	+18	18	-	+18
有形固定資産及び 無形資産除売却損	14	6	+8	3	2	+1
事業構造改善費用	10	38	△28	2	2	+0
訴訟和解金	-	32	△32	-	16	△16
その他	40	41	△1	16	10	+6
その他の費用 計	82	118	△35	39	30	+9
金融収支						
受取利息・受取配当金・支払利息	△73	△38	△36	△23	△15	△9
為替差損益	△22	△1	△20	△30	△44	+15
その他	△5	△2	△4	△4	△3	△1
金融収支 計	△100	△41	△59	△56	△62	+6

連結キャッシュ・フロー



【億円】

	FY21 3Q累計	FY22 3Q累計	FY23 3Q累計
税引前四半期利益（△は損失）	△ 121	△ 8	△ 16
減価償却費及び償却費	566	566	570
営業債権及びその他の債権の増減（△は増加）	265	△ 79	362
棚卸資産の増減（△は増加）	△ 159	△ 625	130
営業債務及びその他の債務の増減（△は減少）	△ 110	144	△ 245
その他	△ 127	△ 165	△ 334
営業活動によるキャッシュ・フロー	315	△ 168	465
有形固定資産の取得による支出	△ 314	△ 157	△ 194
無形資産の取得による支出	△ 136	△ 131	△ 128
子会社株式の取得による支出	-	△ 7	△ 14
その他	40	35	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 411	△ 260	△ 332
フリー・キャッシュ・フロー	△ 96	△ 428	133

連結財政状態計算書



【億円】

	22年3月	23年3月	23年12月
現金及び現金同等物	1,177	1,806	1,124
営業債権及びその他の債権	2,802	3,135	2,992
棚卸資産	1,857	2,421	2,366
その他の流動資産	353	414	432
売却目的で保有する資産	-	-	120
流動資産合計	6,189	7,776	7,034
有形固定資産	2,877	2,891	2,834
のれん及び無形資産	3,541	2,589	2,684
その他の非流動資産	774	882	881
非流動資産合計	7,193	6,362	6,399
資産合計	13,381	14,138	13,432

	22年3月	23年3月	23年12月
営業債務及びその他の債務	1,821	2,005	1,840
社債及び借入金	3,543	4,691	4,016
リース負債	943	992	989
その他の負債	1,459	1,451	1,375
負債合計	7,766	9,139	8,220
親会社の所有者に帰属する持分合計	5,498	4,874	5,077
非支配持分	117	125	136
資本合計	5,615	4,999	5,213
負債及び資本合計	13,381	14,138	13,432

	22年3月	23年3月	23年12月
自己資本比率(%)	41.1	34.5	37.8
格付け評価用自己資本比率(%)	44.8	37.9	41.4
D/Eレシオ	0.82	1.17	0.99

主な通貨の為替レートと為替影響/為替感応度



【為替レート：円】
【影響額、感応度：億円】

	FY22	FY23	対前年影響額		為替感応度*2	
	3Q累計	3Q累計	売上高	営業利益	売上高	営業利益
米ドル	136.51	143.29	+153	△ 4	+31	△ 1
ユーロ	140.59	155.29	+178	+74	+17	+5
ポンド	163.91	179.52	+27	△ 1	+3	+1
欧州通貨*1	-	-	+221	+75	+25	+7
人民元	19.88	19.98	+2	+1	+32	+9
その他	-	-	+22	+1	-	-
予約影響額	-	-	-	△ 1	-	-
合計	-	-	+398	+72	-	-

*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）

2023年度 3Q業績 | 事業セグメント別実績 (対前年)



【億円】

売上高	FY23 3Q累計	対前年			対前年 (調整後) *1			FY23 3Q	対前年			対前年 (調整後) *1		
		FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く		FY22 3Q	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	4,506	4,371	+ 3%	△ 3%	4,371	+ 3%	△ 3%	1,561	1,587	△ 2%	△ 7%	1,587	△ 2%	△ 7%
プロフェッショナルプリント事業	1,897	1,849	+ 3%	△ 1%	1,849	+ 3%	△ 1%	657	651	+ 1%	△ 4%	651	+ 1%	△ 4%
ヘルスケア事業	985	969	+ 2%	△ 1%	969	+ 2%	△ 1%	347	329	+ 5%	+ 2%	329	+ 5%	+ 2%
インダストリー事業	1,016	1,006	+ 1%	△ 2%	1,004	+ 1%	△ 2%	322	332	△ 3%	△ 6%	331	△ 3%	△ 6%
コーポレート他	15	14	+ 10%	+ 10%	16	△ 6%	△ 6%	5	4	+ 23%	+ 22%	5	△ 2%	△ 2%
全社合計	8,420	8,210	+ 3%	△ 2%	8,210	+ 3%	△ 2%	2,892	2,903	△ 0%	△ 5%	2,903	△ 0%	△ 5%

事業貢献利益	FY23 3Q累計	率	対前年			対前年 (調整後) *1			FY23 3Q	率	対前年			対前年 (調整後) *1		
			FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く			FY22 3Q	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	205	5%	74	+ 176%	+ 136%	167	+ 23%	+ 5%	97	6%	63	+ 55%	+ 15%	94	+ 3%	△ 23%
プロフェッショナルプリント事業	88	5%	117	△ 24%	△ 37%	93	△ 6%	△ 21%	52	8%	63	△ 18%	△ 32%	55	△ 6%	△ 22%
ヘルスケア事業	△ 54	-	△ 87	-	-	△ 81	-	-	△ 15	-	△ 5	-	-	△ 4	-	-
インダストリー事業	91	9%	142	△ 36%	△ 40%	163	△ 44%	△ 48%	31	10%	34	△ 10%	△ 13%	41	△ 24%	△ 26%
コーポレート他	△ 207	-	△ 136	-	-	△ 232	-	-	△ 66	-	△ 53	-	-	△ 84	-	-
全社合計	122	1%	110	+ 11%	△ 55%	110	+ 11%	△ 55%	99	3%	102	△ 3%	△ 36%	102	△ 3%	△ 36%

営業利益	FY23 3Q累計	率	対前年			対前年 (調整後) *1			FY23 3Q	率	対前年			対前年 (調整後) *1		
			FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q累計	前期比	為替影響を除く			FY22 3Q	前期比	為替影響を除く	FY22 3Q	前期比	為替影響を除く
デジタルワークプレイス事業	197	4%	15	+ 1227%	+ 1029%	107	+ 83%	+ 56%	96	6%	49	+ 97%	+ 46%	80	+ 20%	△ 11%
プロフェッショナルプリント事業	88	5%	112	△ 21%	△ 34%	89	△ 1%	△ 17%	51	8%	62	△ 17%	△ 32%	54	△ 5%	△ 22%
ヘルスケア事業	△ 58	-	△ 96	-	-	△ 90	-	-	△ 16	-	△ 5	-	-	△ 4	-	-
インダストリー事業 *2	69	7%	141	△ 51%	△ 55%	161	△ 57%	△ 61%	14	4%	34	△ 58%	△ 61%	40	△ 65%	△ 67%
コーポレート他	△ 210	-	△ 138	-	-	△ 233	-	-	△ 68	-	△ 53	-	-	△ 84	-	-
全社合計	86	1%	34	+ 153%	△ 59%	34	+ 153%	△ 59%	78	3%	85	△ 9%	△ 48%	85	△ 9%	△ 48%

*1 FY22実績 (調整後) : FORXAIの組替、本社費等配賦調整後の値
 *2 FY23実績 : 映像ソリューション (プラネタリウム) の減損損失含む

セグメント別四半期推移



【億円】

【売上高】	FY22 *					FY23		
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q
デジタルワークプレイス事業	1,289	1,496	1,587	1,631	6,003	1,433	1,512	1,561
オフィス	1,109	1,290	1,377	1,416	5,191	1,226	1,291	1,332
DW-DX	180	206	209	216	811	207	221	228
プロフェッショナルプリント事業	551	648	651	677	2,526	602	638	657
プロダクションプリント	355	417	429	419	1,619	377	410	435
産業印刷	60	82	72	110	323	77	94	86
マーケティングサービス	136	149	151	148	584	148	134	136
ヘルスケア事業	287	353	329	409	1,378	293	345	347
メディカルイメージング	191	250	213	291	946	180	221	204
プレジジョンメディシン	95	103	116	118	433	113	124	143
インダストリー事業	349	325	331	366	1,371	332	362	322
センシング	135	114	113	108	469	91	98	99
機能材料	113	80	83	116	392	114	128	85
I/Oコンポーネント	37	42	47	45	171	45	47	49
光学コンポーネント	36	54	54	53	198	47	48	51
画像IoTソリューション	19	25	26	27	98	27	31	27
映像ソリューション	8	9	9	18	43	8	10	11
コーポレート他	3	7	5	10	26	4	6	5
全社合計	2,478	2,829	2,903	3,094	11,304	2,664	2,864	2,892

* FY22 実績：FORXAIの組替、本社費等配賦調整後の値

© KONICA MINOLTA 33

セグメント別四半期推移



【億円】

【事業貢献利益】	FY22 *					FY23		
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q
デジタルワークプレイス事業	△ 2	74	94	140	307	24	84	97
プロフェッショナルプリント事業	2	36	55	57	151	8	28	52
ヘルスケア事業	△ 57	△ 21	△ 4	11	△ 70	△ 32	△ 8	△ 15
インダストリー事業	70	52	41	55	217	26	34	31
コーポレート他	△ 72	△ 76	△ 84	△ 75	△ 307	△ 66	△ 75	△ 66
全社合計	△ 59	67	102	188	297	△ 41	64	99

【営業利益】	FY22 *					FY23		
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q
デジタルワークプレイス事業	△ 43	70	80	108	215	20	80	96
プロフェッショナルプリント事業	△ 1	36	54	47	136	9	27	51
ヘルスケア事業	△ 63	△ 23	△ 4	△ 1,025	△ 1,115	△ 34	△ 9	△ 16
インダストリー事業	70	52	40	△ 26	135	27	29	14
コーポレート他	△ 73	△ 76	△ 84	△ 88	△ 321	△ 66	△ 76	△ 68
全社合計	△ 110	59	85	△ 985	△ 951	△ 44	52	78

* FY22 実績：FORXAIの組替、本社費等配賦調整後の値

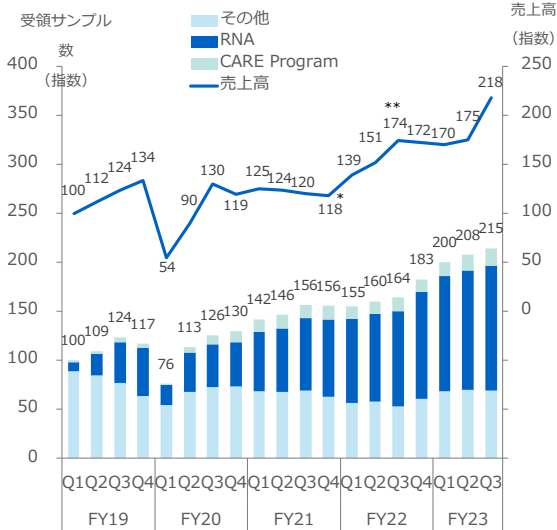
© KONICA MINOLTA 34

遺伝子検査/創薬支援 | 販売状況とKPI



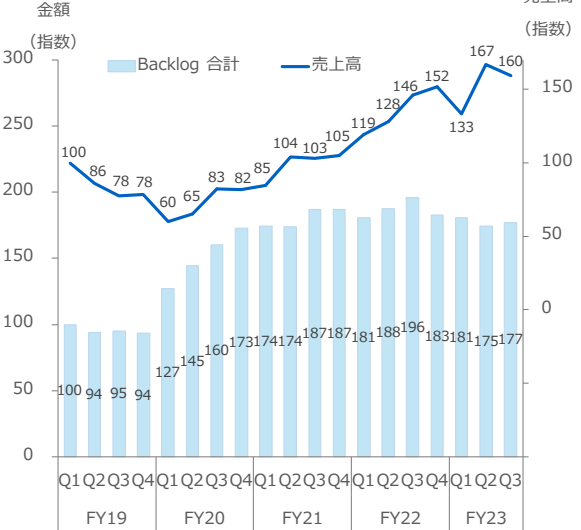
KONICA MINOLTA

Ambry社 売上高および受領サンプル数推移



* 売掛金/売上高減額前
** 売掛金/売上高修正を反映

バックログ Invicr社 売上高およびバックログ推移



FY19 1Qを100とした時の指数/売上高は円貨ベース

開示セグメント

2023年3月まで		2023年4月から	
デジタルワーク プレイス事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィス ■ DW-DX 	デジタルワーク プレイス事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィス ■ DW-DX
プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロダクションプリント ■ 産業印刷 ■ マーケティングサービス 	プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロダクションプリント ■ 産業印刷 ■ マーケティングサービス
ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヘルスケア ■ プレジジョンメディシン 	ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ メディカルイメージング* ■ プレジジョンメディシン
インダストリー 事業	センシング	インダストリー 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ センシング ■ 機能材料 ■ IJコンポーネント ■ 光学コンポーネント ■ 画像IoTソリューション ■ 画像IoTソリューション ■ 映像ソリューション
	材料・コンポーネント		
インダストリー事業		インダストリー事業	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 機能材料 ■ IJコンポーネント ■ 光学コンポーネント 			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 画像IoTソリューション ■ 映像ソリューション 			
コーポレート他、QOL		コーポレート他、QOL	

* メディカルイメージング：ヘルスケアユニット

- 複合機（MFP: Multi Functional Peripheral）スピードセグメント：デジタルワークプレイス事業
Seg.1～20枚機、Seg.2 21-30枚機、Seg.3 31-40枚機、Seg.4 41-69枚機、Seg.5 70～枚機（A4縦、分速）
- カラープロダクションプリント機セグメント：プロフェッショナルプリント事業
ELPP（Entry Light Production Print）月間印刷量10-30万枚、主に大企業の集中印刷室向け低価格帯製品
LPP（Light Production Print）月間印刷量10-30万枚、商業印刷向け製品
MPP（Mid Production Print）月間印刷量30-100万枚、商業印刷向け製品
HPP（Heavy Production Print）月間印刷量100万枚以上、商業印刷向け製品
- RNA（リボ核酸）検査：ヘルスケア事業
DNA（デオキシリボ核酸）の一次転写物であるメッセンジャーRNA（mRNA）構造の変化を捉える検査。
従来のDNAでの検査では臨床的な“意義不明”となっていたDNA変異に対して、転写産物のmRNAを解析することで、より精度の高い検査結果を提供することができる。
- CARE Program（Comprehensive Assessment, Risk & Education）：ヘルスケア事業
遺伝性乳がんハイリスク群の効果的な拾い上げと遺伝子診断に関わるトータルサポートを行うプログラム。
- GenMineTOP がんゲノムプロファイリング検査：ヘルスケア事業
東京大学、国立がん研究センターとの共同研究による、腫瘍組織の遺伝子解析。
DNAだけでなくRNAも解析する、腫瘍組織だけでなく非腫瘍細胞のDNAも解析するという特徴がある。
- FORXAI：お客様・パートナーと共に、社会のDXを加速させる画像IoTのプラットフォーム。



KONICA MINOLTA

- **本資料の記載情報**
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**
本資料に記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。